

平成24年

第2回教育委員会会議録

秋田県教育委員会

平成24年第2回教育委員会会議録

- 1 期 日 平成24年2月3日 金曜日
- 2 場 所 大仙市立横堀小学校視聴覚室
- 3 開 会 午後3時15分
- 4 閉 会 午後4時25分
- 5 出席委員 佐藤 一成
猪股 春夫
田中 直美
長岐 和行
米田 進

6 説明のための出席者

教育長 米田 進
教育次長 山田芳浩
参事（兼）高校教育課長 福田世喜

教育次長 白山雅彦
義務教育課長 橋田 裕

7 報告事項

平成24年度秋田県立中学校入学者選抜結果について
平成24年度秋田県公立高等学校入学者選抜前期選抜学科別志願状況
平成25年度以降の秋田県公立高等学校入学者選抜制度
平成25年度秋田県公立高等学校・県立中学校入学者選抜に係る日程について
平成24年3月卒業者の就職内定状況について
平成25年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験について

8 会議の要旨

【佐藤委員長】

ただいまより、平成24年第2回教育委員会会議を開催いたします。
会議録署名員は1番猪股委員と3番田中委員にお願いします。
はじめに、「平成24年度秋田県立中学校入学者選抜結果について」高校教育課長から説明をお願いします。

【参事（兼）高校教育課長】

「平成24年度秋田県立中学校入学者選抜結果について」説明

【佐藤委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

【田中委員】

志願倍率が下がっていることについて、小学校6年生の児童数が減っているということは分かるのですが、中学校の統廃合による影響というのはどのようなことですか。

【参事（兼）高校教育課長】

統合校ができる则校舎も新しく、施設的に魅力があるばかりでなく、学校規模が大きくなり、部活動も増えるなどするため、地域の皆さんの新しい学校に対する期待が高まり、統合校に向かう雰囲気が高まる傾向にあるということです。

【田中委員】

少子化により子どもの数が減少する中で、県立中学校の良さをもっとアピールする必要があると思います。

【参事（兼）高校教育課長】

おっしゃるとおりであり、高校入試がないという中高一貫校のメリットをアピールしていく必要があると思っています。例えば、横手清陵学院はものづくり教育や国際交流関係、課題研究など特徴的な取組があり、進路面での成果など、アピールするものがたくさんあります。地域の児童や保護者の皆様に、中高一貫教育の良さが十分に伝わっていないことが課題であると認識しています。

【猪股委員】

先ほどの説明では、倍率低下の要因を、中学校の統廃合など外的なもので説明されていましたが、ただいまの説明では、アピール不足など内的な要因もあるものと思われる。倍率が1倍を切ってからでは遅いので、その点をきちんと押さえた上で、真剣に取り組む必要があると思います。

【参事（兼）高校教育課長】

大館国際情報学院では、6年間の一貫教育を受けた1期生が、50名以上国公立大学に進学していますし、横手清陵学院では、国公立大学進学者は31名であるものの、東北大学は毎年、昨年は北海道大学や国際教養大学など、いわゆる難関校に合格しています。このような卒業生の成果を含め、中高一貫校の魅力を伝えていきたいと思っています。

【佐藤委員長】

他に質問等はありませんか。

無いようですので、次に、平成24年度秋田県公立高等学校入学者選抜前期選抜学科別志願状況について、高校教育課長から説明をお願いします。

【参事（兼）高校教育課長】

「平成24年度秋田県公立高等学校入学者選抜前期選抜学科別志願状況について」説明

【佐藤委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

【田中委員】

男鹿工業高校の機械科などは、昨年の状況からかなり倍率が上がっていますが、何か理由があるのでしょうか。

【参事（兼）高校教育課長】

学校では、中学校を回って説明するなど地道にPR活動を行ってきたそうですが、特に何か特別なことをしたということではないそうです。就職難の社会情勢の中で、就職率の高さなど、専門高校の良さや、部活動の活躍が評価されたものと考えています。

【佐藤委員長】

他に質問等はありませんか。

無いようですので、次に、「平成25年度以降の秋田県公立高等学校入学者選抜制度」について、高校教育課長から説明をお願いします。

【参事（兼）高校教育課長】

「平成25年度以降の秋田県公立高等学校入学者選抜制度」について説明

【佐藤委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

無いようですので私から質問ですが、パブリックコメントを受けて改善する点はありましたか。

【参事（兼）高校教育課長】

現時点では、大きく変更が必要な意見は無かったものと認識しています。

【田中委員】

制度が変わった年の学年は、過去のノウハウが役立たなくなるため、中学校の先生方や受検生が苦勞するという話を聞いたことがあります。とくに今回は、前期選抜で学力検査が導入されるため、どのような準備をすればいいのか、情報を伝える必要があると思います。

【参事（兼）高校教育課長】

前期選抜の学力検査は大きな関心事であろうと認識しています。基本的には基礎力を把握するためのものであり、現段階では、中学2年生に県独自で行っている学習状況調査のような問題で、内容を中3までの範囲に拡大するものというイメージをもっています。ですから、特別に何かテクニックが必要になるのではなく、普段の授業で十分に対応できるものにしたいと思います。

【佐藤委員長】

他に質問等はありませんか。

無いようですので、次に、「平成25年度秋田県公立高等学校・県立中学校入学者選抜に係る日程について」、高校教育課長から説明をお願いします。

【参事（兼）高校教育課長】

「平成25年度秋田県公立高等学校・県立中学校入学者選抜に係る日程について」説明

【佐藤委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

特に無いようですので、次に、「平成24年3月卒業者の就職内定状況について」、高校教育課長から説明をお願いします。

【参事（兼）高校教育課長】

「平成24年3月卒業者の就職内定状況について」説明

【佐藤委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

【猪股委員】

正規社員、派遣社員、パート従業員など、採用の内訳はどうなっていますか。

【参事（兼）高校教育課長】

現時点で採用の内訳までは把握しておりません。

【猪股委員】

定着率の調査はいかがですか。

【参事（兼）高校教育課長】

県内就職者の就職1年後の離職状況については高校教育課で調査していますが、労働局の調査によりますと、平成21年3月卒業者の離職率が17.1%であったのに対し、平成22年卒の生徒の離職率が24.9%と高くなっております。これは、リーマンショック後の厳しい就職状況の中で、希望した職種に就けなかったという事情もあると思いますが、コミュニケーション力不足による人間関係の問題や、仕事が自分に合っていないことなどを理由に挙げております。卒業3年後の離職率は38.4%で、これは下がってきています。いずれにせよ、引き続きキャリア教育を重視しながら、その充実に力を入れていきたいと思っております。

【佐藤委員長】

全国的に卒業3年後までフォローアップしているのですか。

【参事（兼）高校教育課長】

労働局で全国的に調査しており、これまで、全国平均より1～2ポイントほど高めに推移しています。

【佐藤委員長】

何年後まで調査するのですか。

【参事（兼）高校教育課長】

高校教育課では県内に就職した卒業生の1年後の状況を調査しています。労働局では3年後まで調査しています。

【佐藤委員長】

TDKの工場閉鎖の影響はいかがでしょうか。

【参事（兼）高校教育課長】

いずれ出てくるものと危惧しています。

協力会社である栄田電器の工場閉鎖の記事が出ていましたが、卒業予定者で内定者が3名おりました。予定通り採用するものの、工場閉鎖後は他企業に斡旋する旨の連絡が学校にあったそうです。

【長岐委員】

未内定者には地域や校種など、何か特徴的な傾向がありますか。

【参事（兼）高校教育課長】

普通科や商業科の女子で、事務系の希望は厳しいようです。

一方、雄物川高校のように10月中に就職希望者の100%内定を達成したところもあります。

【長岐委員】

内定を得るために希望しない職種に変更させることは防ぎたいと思うのですが、対策はあるのですね。

【参事（兼）高校教育課長】

未内定のまま卒業したとしても、トライアル雇用奨励金制度などを活用するよう指導しているところです。

【佐藤委員長】

他に質問等はありませんか。

特になければ、次に、「平成25年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験について」、高校教育課長から説明をお願いします。

【参事（兼）高校教育課長】

「平成25年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験について」説明

【佐藤委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

【猪股委員】

教育振興に関する基本計画にも盛り込まれていないのに、なぜ、今、急に受験年齢制限を引き上げるのでしょうか。

【参事（兼）高校教育課長】

これまで教育委員の皆様にご報告をしておりましたので、急という印象をおもちゃかと思っておりますが、庁内では以前から何度も議論して参りました。引き上げの理由は、講師の確保が難しくなり、必要としているところに配置できないという現実があること、また、小中学校では6年後の退職者の増加に伴い大量に採用する見込みであり、それを見通して受験者を増やす必要があること、さらに、現在の年齢構成の偏りが、なかなか改善されないということなどが挙げられます。

【猪股委員】

それが理由だとすれば、受験年齢制限を撤廃すればいいのではないのでしょうか。この引き上げで、年齢構成が適切になるのでしょうか。講師を確保することと年齢構成の偏りについては、分けて考える必要があるのではないですか。

【長岐委員】

年齢制限を引き下げてきたこれまでの流れと逆行するため、猪股委員と同じく、今回の年齢の引き上げが唐突だという印象があります。一方で、教職が専門職であることを考えると、間口は広くしておくべきだと思います。ですから、教職の本質論の議論と、突然の引き上げについての議論は、分けて考えるべきだと思います。そもそも、この事項は事務局への委任事項なので、報告してもらえばいいことなのですが、手続き論は別として、一度、事前に協議できれば良かったと思います。

【白山次長】

御指摘がありましたように、今回の報告が唐突であると思われることに対しましては、その通りですので、心からお詫び申し上げます。採用試験については、通常であればもう少しあとにお知らせするものなのですが、来年度の採用試験に向けて全国の受験者が計画を立てる時期であり、人材の県外流出を防ぐ意味からも、早めのこの時期にお知らせする必要があると考えたものです。

【猪股委員】

年齢制限を引き上げると新卒の人たちや若い人たちは、ますます県外に流出するのではないのでしょうか。

【白山次長】

平均年齢の若返りを期待して年齢制限を引き下げたのですが、思いのほか効果が現れませんでした。39歳に引き上げることで、これまで以上に多くの方々が受験するようになり、優秀な人材を確保したいと考えています。若い人たちが受験しなくなるとは考えておりません。

【参事（兼）高校教育課長】

東京では小学校だけで1600人も採用していますので、本県を合格できなかった方が首都圏で合格するとそちらに流れてしまいます。昨年まで受験年齢を35歳としていた山口や福岡、沖縄がそれぞれ今年引き上げたため、35歳としているのは本県だけとなってしまいました。年齢制限を設けない自治体も、指定都市を合わせれば15自治体となりますので、危機感をもっています。

【猪股委員】

都市圏の大量採用はいつまで続くのでしょうか。

【義務教育課長】

正確には分かりませんが、しばらくは続くものと思われまます。

【長岐委員】

確かに突然の報告に戸惑いがありますが、専門職として間口を広げることには反対しません。

【米田教育長】

協議会等で事前に話題にし、お知らせしておけば良かったと思いますが、来年度の受験を考えている皆さんに急ぎお知らせしたいという思いが強く、このような形になってしまいましたことをお詫びいたします。

【猪股委員】

私たち教育委員は、県民を代表して県の教育行政について協議しているのですから、質問時間や審議の時間も十分に確保し、時間のあるときに報告していただきたかったと思います。

【長岐委員】

35歳を過ぎた方を救済するための制度変更ではなく、広く力のある方を採用するという、本来あるべき試験制度を考えた結果であるということを確認したいと思います。

【佐藤委員長】

他にありませんか。

【長岐委員】

本日の横堀小学校での取組のように、小学校での外国語活動が広く行われるようになりましたが、すべての小学校教員が英語が得意というわけではないと思いますので、英語の話せる教員を採用する必要があると思われました。

【米田教育長】

平成11年度に2次試験で英会話面接を実施して以来、教員の英語コミュニケーション力は高まっています。また、国際教養大学での研修を受けた先生を外国語活動のリーダー的存在としています。

ただ、本校のような取組をすべての小学校で行わなければならないわけではなく、各学校や地域の実態・特色に応じて、児童生徒のコミュニケーション力を高めることが肝要だと考えています。

【佐藤委員長】

他に質問等はありませんか。

予定された案件は以上ですが、他に何かありましたら発言願います。

特になければ、以上で本日の会議を閉じます。お疲れさまでした。